

遊技産業活性化委員会

6団体7名の委員で発足

14団体代表が一堂に会して発表

パチンコ・パチスロ関連の14団体で構成する「21世紀会」は4月25日、日遊協主催「フェスタ2014」が開かれた東京・秋葉原の会場で、「遊技産業活性化委員会」の発足を宣言した。

壇上には14団体の代表者が勢ぞろいし、遊技産業の再上昇への熱意を示した。代表として青松英和全日遊連理事長が挨拶に立ち



委員長就任のあいさつをする阿部全日遊連副理事長（マイクを持っている）

「どんな産業でもお客様が望まないものを作ったり売ったりはしない。ところが遊技産業はこの10数年、ホールが望んだり、メーカーが作りたいたい機械をお客様に押し付けてきた。自分勝手な理屈を押し付けてきた結果、ファンは激減してしまった。厳しい反省に立ち、21世紀会は今年初めに「宣言2014」を発し多彩な遊技機、ファンが望む営業、それをアピールするPRを3本柱に打ち立てた。これが最後のチャンスです。一つにまとまって新しくファンアンケート調査の理解を深めるためにスクラムを組もう」と檄を飛ばした。

委員長に阿部全日遊連副理事長

遊技産業活性化委員会は6団体を中心に組織されることになり、すでに各団体からメンバーが推薦されており、阿部恭久全日遊連副理事長、伊坂重徳全日遊連副理事長、大久保正博日遊協副会長、榎本善紀日工組副理事長、木原海俊日電協理事、中村昌勇全商協会長、

伊豆正則回胴遊商理事長の7名が委員として紹介された。

その中から選出された阿部恭久委員長は「いまさら言うまでもなく、私たちの産業は経営的にも社会環境的にも厳しい状況に置かれています。ここを脱するにはファンの願いに適切に応え、ユーザーを増やすことが最も重要です。年初の「気軽に遊んでもらおうパチンコ・パチスロ」の宣言を今こそ産業一丸となって活かさねばなりません。委員会には専門知識のある人を集めたワーキンググループを組織し、議論を深め具体的な活動に結びつけていきます。真の娯楽産業へ21世紀会全体のご協力をお願いいたします」と決意表明した。

日遊協は、昨年2月に多彩な遊技機創造を柱とした「遊技産業活性化プロジェクト」を立ち上げ、その後日遊協、全日遊連、日工組で組織する「現行遊技機検討会」で具体的な展望作りを進めてきた。その運動が産業全体の14団体に広がり、1月28日の21世紀会による「宣言2014」となり、具体的な展開のために「遊技産業活性化委員会」が発足した。

出席した14団体代表

日遊協	庄司孝輝会長
全日遊連	青松英和理事長
日工組	金沢全求理事長
日電協	兼次民喜副理事長
全商協	中村昌勇会長
回胴遊商	伊豆正則理事長
同友会	松田高志代表理事
余暇進	千原行喜副代表理事
PCSA	中島基之専務理事
自工会	古宮重雄理事長
メダル工業会	今井茂喬理事
補給組合	梁川誠市理事長
PSA	恵良道信専務理事
認証協	広瀬清代表理事

各団体の代表を背にした「遊技産業活性化委員会」の委員7名。産業界全体の熱意が感じられるメンバーだ

